

# 学校経営推進費 事業計画書

## 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立北摂つばさ高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の自己肯定感の獲得と学校生活満足度の向上 2 中途退学率の減少
計画名	心を鍛えるつばさチャレンジ

## 2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	<p>2. 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成 (1) 社会に通用するコミュニケーション力のある人材を育成する。</p> <p>ア. 教育相談体制の再構築とカウンセリングの手法を用いた対話主体の生徒支援をおこなう。</p> <p>イ. 開発的カウンセリングの視点をもって生徒の自己肯定感の育成をすすめる。</p> <p>ウ. ユニバーサルデザインの授業等でのプレゼンテーション活動を通して生徒の自己発信力をたかめる。</p> <p>※ 学校教育自己診断のアンケート(教員)「教育相談体制が整備」の肯定率を R4 年度までに 70%以上をめざす。(H29 年度 65% H30 年度 68% R1 年度 59%)</p>	
事業目標	<p>【心を鍛える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断、スタディーサポート等により生徒の自己肯定感の低さに起因する自己決定力の弱さという課題が見えた。希望の進路実現へつなぐためには自己肯定感の強化に主眼を置いた教育方針の打ち出しが急務である。</li> <li>学校体制の方向性：従来の対処療法的な教育相談体制を脱して、すべての生徒が対象の開発的カウンセリング体制を構築することにより、少しのことでは折れない強い心を持った、社会でたくましく生き抜くことができる生徒を育成する。</li> <li>生徒・教員の変容：多様な価値観を基にしたさまざまな体験活動をとおして自己有用感を実感する。</li> <li>わかりやすく魅力的な授業を提供することで、生徒の学びへの自己発信力を強化する。</li> <li>人とのつながりを大切にしてコミュニケーション力を獲得する。</li> </ul>	
取組みの概要	整備する 設備・物 品	箱庭(1セット)、箱庭置台 箱庭棚 箱庭棚カバー Wi-fi 環境の整備(ルーター、ケーブル)、アイパッド(B5サイズ)20台、アイパッドの鍵付き保管庫、アップルTV1台、保護シート
	前 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談委員会は、SC、SSWの指導助言を受け教職員の学習会をほぼ毎月開催。支援教育委員会は、中学校や保護者との連携などにより要配慮生徒の支援を実施。ユネスコスクールとして被災地支援や募金活動だけでなく、地域に開かれた学校として交通安全教育にも力を入れた結果、高等学校としては全国では唯一、文科省から「学校安全」に関する表彰を受けた。一方で学校全体としての、生徒の心へのアプローチの充実が課題。</li> </ul>
	初 年 度	<p>【開発的カウンセリングの周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談委員会と支援教育委員会を合併し包括的に支援できる教育相談支援委員会に組織改編。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理士等によるリフレーミング、箱庭等の研修を全教員対象に2回実施。各学年の取組みの主任となるリーダー教員を対象にアドバンス研修2回実施。取組みをブログ、学年通信で発信。</li> <li>長期の休校期間における生徒の心のケアをふくめて希望生徒対象の箱庭研修1回実施。</li> <li>コース授業改善委員会が中心となって、ユニバーサルデザイン授業の相互見学を、各学期に設定。</li> <li>正しい議論の仕方等を生徒会指導担当教員が中心に生徒に向けて指導を行い、生徒の自己発信力の向上をめざす。</li> </ul>
	2年め	<p>【開発的カウンセリングの学年・分掌での活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーダー教員が中心となり傾聴の手法等を教員へレクチャー。心理学を中心とした教育相談便りを隔月発行。</li> <li>教育相談室と交流ルームの整備と活用により、生徒の状況に応じた段階的支援の実施。</li> <li>箱庭を活用した教員と生徒の合同研修1回。各階のWi-Fi環境のあるスポット教室で開発的カウンセリング（自己肯定感を高める）研修を各学期1回実施。プレゼンテーション等ができる授業ではスポット教室を積極的に活用。</li> <li>ユニバーサルデザイン授業改善では地域の異校種を巻き込んだ授業の研究協議を年1回、情報共有を年3回。</li> <li>生徒会役員等の指導のもと生徒が各学年会を運営し、学年行事に取り組むことでコミュニケーション力の向上をめざす。</li> </ul>
	3年め	<p>【開発的カウンセリングの学校から地域への発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーダー教員から担任団に向けて、進路実現に向けたコーチング手法等の教員研修を月1回実施</li> <li>生徒会活動の場面においてスポット教室を積極的に活用し、生徒によるプレゼンテーション等自己発信の機会を増やす。</li> <li>生徒が自己有用感を持てるように、行事や校則などに関する生徒会活動の活性化を促す。</li> <li>様々な交流の場面で乳幼児交流、異文化交流等の取組みについて地域の小中学校に発信することにより、更なる生徒相互の自己肯定感の向上をめざす。</li> <li>ユニバーサルデザイン授業の見学を各学期に実施し、研究協議の機会を設定することで、効果的な教授法を全教員で共有する。</li> </ul>
	取組みの主任・実施者	<p>主任：首席、つばさチャレンジプロジェクト 実施者：全教員を予定</p>
成果の検証方法と評価指標	初年度	<ol style="list-style-type: none"> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」「様々な活動を通して自信がもてるようになった」の項目を60%以上。</li> <li>本校のいじめ防止自己診断アンケート第1象限（他者理解）75%以上、第4象限（他者への無関心）10%以下。</li> <li>生徒の日々の発言、行動観察（教員へのアンケート）</li> </ul> </li> <li>成績不振による中退者を前年度比25%減少。</li> </ol>
	2年め	<ol style="list-style-type: none"> <li> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」「様々な活動を通して自信が持てるようになった」の項目を65%以上。</li> <li>本校のいじめ防止自己診断アンケート第1象限（他者理解）80%以上、第4象限（他者への無関心）8%以下。</li> <li>生徒の日々の発言、行動観察（教員へのアンケート）</li> </ul> </li> <li>成績不振による中退者を前年度比25%減少。</li> </ol>

	3 年 め	<ol style="list-style-type: none"><li>1<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」「様々な活動を通して自信が持てるようになった」の項目を70%以上。</li><li>・ 本校のいじめ防止自己診断アンケート第1象限（他者理解）85%以上、第4象限（他者への無関心）5%以下。</li><li>・ 生徒の日々の発言、行動観察（教員へのアンケート）</li></ul></li><li>2 成績不振による中退者を前年度比25%減少。</li></ol>
--	-------------	---